

## さまざまな選択—その3

突然だった。「こんにちは。」—スーツ姿の男性が入ってこられたのだ。どこかの営業の方かしらと思いつつ出てみると、「私、旭野高校校長の磯部と申します。」と、その方はおっしゃった。驚く私に「熱心に指導してらっしゃる塾さんを訪問させていただいているのです。」と、続けておっしゃった。当塾が熱心な指導を行っているということをどこで判断されたのかは定かではないが、当塾から毎年入学させてもらっている塾生達が、すばらしい生徒として高校生活を送っていることに間違いはない。だからこそ来ていただけたのだろう。今春は当塾からは旭野へは5人だった。男子1人、女子が4人である。一人一人について少し紹介したいと思う。

まずは唯一の男子のN君。お父さんが転勤族だったが、中1の始めから中3の最後まで塾に通ってくれて、入試までともに頑張ることができた。岡山への転勤が決まったのは3月である。旭野には一日だけ入学して、すぐに転校という形をとった。磯部校長先生も残念がられるほど入試の当日点は高かった。マイペースで、負けず嫌いというわけではなかったが、最後は自分に負けずしっかり努力ができた。穏やかで明るく、誰にでも優しいムードメーカーだった。

あとの4人の女の子達も、性格はさまざまだが本当に素敵な子達だった。中Iの初めから入塾しているMちゃんは、いつも頼まれてもいないのに授業後に塾のホワイトボードをきれいに消してくれた。人に流されることなく自分の物差しで考えられる、誠実で真面目で誰からも信頼されていた子だった。同じく中Iの初めから入塾しているAちゃんは明るくて元気活発。中学ではバレー部で活躍していたものの高校では他の部に入ったのだが、クラス対抗のバレーの試合での活躍ぶりからバレー部にスカウトされ、今またバレー部で元気に頑張っているらしい。彼女の明るさはまわりのみんなも元気にした。男子も女子も所属中学も関係なく誰とでも仲良くしてくれていたのがもう一人のMちゃん。中Iの途中からの入塾だったが、すぐにみんなに溶け込んだ。Mちゃんを持つ柔らかさ、温かさは人を安心させるのだろう。強かったテニスの戦いぶりを一度見てみたかったものだ。最後は中3から入塾したもう一人のAちゃん。常にこにこしていたが、大変な努力家で、コツコツと頑張りを続けて力をつけ、念願の旭野への合格を果たした。やさしさがあふれ出ている笑顔の後ろに芯の強さを持っていたのだ。

この5人に共通していたのは、真面目でうそがなく一生懸命に取り組んでいたということ。英語も丁寧に読んで書いて、数学も粘り強く解いた。5人の内申の平均は40.2だった。中学校からも認められるこの誠実さが、まさに旭野高校から求められているものかもしれない。